

米欧回覧の会 関西歴史ツアーの記 (平成15年11月18日-19日)

小野博正

11月18日正午に新大阪駅で落ち合った、関西歴史ツアーの参加者は21名(関西より2名、関東・名古屋より19名)。米欧回覧の会の関西支部を主宰しておられる山崎岳磨さんのご案内で、バスを利用しての関西ツアーの出発。男性7名、女性14名の構成でした。まず、車窓より、春には桜の名所で通り抜けがあるという造幣局を横に見ながら、大阪の北浜にある「適塾」に向かう。見過ごしやすい小さな建物で驚いたが、中は意外に広い。ここで、幕末の人材を多く輩出した緒方洪庵とその妻の八重の生涯を偲ぶ。橋本左内、大村益次郎、福沢諭吉、長與専斎、大鳥圭介、高松凌雲、佐野常民などの人材を育てた。

適塾の庭の隅なる石露の花

次に訪れた大阪城は、幕末に家茂がここで亡くなり、慶喜が諸外国の大使らと会見した場でもある。折しも、城内の諸処で菊の展示がなされ、我々の目と鼻を悦ばせ、太閤ゆずりの豪華絢爛の城郭と天守閣が秋空に聳え立っていた。戦時中はこの周辺はすべて、軍事基地化していたと山崎さんの説明。城内のいずこともなく、音楽が流れてきて、その音に引かれて近寄ると、スコットランドの服装をしたパイプ奏者が、顔を少年のように紅潮させて、日本の歌や、アメイジング・グレースの曲を奏でていた。

金色に天守聳える菊日和



車は、西宮神社に向かう。別名恵比寿神社である。天照大神、須佐乃男神、恵比寿、大国主大神を祀る。震災で本殿が傾いたが、さすがに商売の神様のえびすさん。その年の暮れには、うん億円掛けて、再建したと宮司さんから説明を聞く。中々に、ユーモアと商才のある宮司さんとお見受けした。えびすさんは商売繁盛のためのお飾りを正月に売り出すが、これは寺社は一切拘わりなく、周囲の業者が売り出すものらしい。これを称して、宮司は民活で、

神社も民間も繁盛と自画自賛する。この神社に、立ち寄った目的は、神社の境内にある、岩倉具視の旧邸の一部であった“六英堂”である。神戸の布引にあったこの建物を、商売人の宮司は、只でエドワード・キヨソネの六英傑の肖像画と共に頂いてきて、神社の看板とした。明治天皇の御真筆になる“六英堂”の文字もちょうかりと門前に掘り込んだ。宮司さんは山崎さんの友人らしい。

えべっさん宮司のしきる神の留守 震災を受けし土塀や雪ばんば

西宮神社を出ると、バスは一路、六甲山の芦有ドライブウェイを経由して、宿舎の有馬温泉・月光園の游月山荘に向かう。途中、六甲の展望台から阪神の街を展望する。有馬温泉は日本最古の湯治場である。夕食の宴で、阪神支部と関東の会員との交流を深める。夕食後も部屋に戻って、遅くまで歴史談義を尽くす。メンバーの小唄まで飛び出した。

酔眼にけむる寒月露天風呂

11月19日有馬温泉を8時に出発。阪神会員5名が待つ、霊山歴史館に向かう。10時着。この日のガイドを務めて頂く、京都歴史ボランティア協会の方々ともお会いする。このボランティア協会の皆様のお陰で、京都の見学は、実に豊かになった。霊山歴史館は、“岩倉具視没後120年を記念しての特別展が開催されていた。岩倉だけでは、地味で人を呼べないらしく、竜馬と新撰組展も併設されていた。岩倉展としては、最近発見されたばかりの、旧岩倉邸(6200坪で建坪2000坪の旧忍藩邸・東京の馬場先門)の図面に一同感嘆する。この霊山歴史館は松下幸之助翁の発案で英傑を顕彰する目的で開設されたもので、隣接の墓地には英傑の墓と同時に、パール判事の銅像も建っていた。新撰組の資料が豊富で、近藤勇の達筆な手紙が目をついた。農家の子弟といわれた武勇だけかと思っていた新撰組の面々も、意外に教養人であったことを認識させられた。

霊山館出でしほてりに寒桜

昼食までの時間を、京都高瀬川沿いの幕末の志士のゆかりの地を散策する。幾松と桂小五郎の旧邸などあり。京料理・義濃吉での昼食時、新たに参加した阪神会員とも懇談する。その後、地下鉄で、御所に向かう。この頃から京都は時雨だした。京都御所は、宮内庁のガイドに従って、紫宸殿、清涼殿、幕末に小御所会議で有名な小御所、御学問所、御池庭などを拝観する。

玉砂利を濡らす時雨の御所詣

最後に、郊外の岩倉村にある岩倉具視幽棲旧宅を訪ねる。子孫の岩倉具忠氏の出迎えとご説明を頂く。簡素な住居にして、近くの実相院より、岩倉の家来の住居として借り受けた次第が古文書で確認されている。ここで、維新の英傑達が密会したと言う。

幽棲の岩倉村の紅葉かな



今回の関西歴史ツアーは、阪神支部の山崎代表の精力的な下準備で、ほとんどスケジュールどおりの順調な、且つ実に実りの多い歴史ツアーとなった。感謝に耐えない。

山崎岳磨さんは80歳。普段、山登り等で足腰を鍛えておられるとのことで、ほとんど、年齢を感じさせない矍鑠とした行動力と、歴史への限りない探究心で、関西支部を引っ張って戴いている。誠に、惚れ惚れとするような、良い歳のとり方で感嘆するが、まだまだ、関西のリーダーとしての体力的余裕は充分とお見受けしたが、次の関西支部の主宰の後継者にも心を配られておられた。

美しき老いのありけり冬日和

最後に、京都タワーホテルにて、関西の会員や歴史ボランティアの方々と、有意義な懇親会を持ち、今回の旅の総仕上げを行ない、京都国立博物館に勤務する、長嶋会員のお嬢さんも飛び入りして、大いに盛り上がった。